

病院経営の現状把握と改善策を考える

講師密着 セミ形式 短期集中研修

◆開講要領は別紙「実施計画」をご覧ください

開講概要

コース名 講師 実施日 演習テーマ 詳細は別紙を ご参照ください	演習テーマ： 小規模病院の経営改善事例研究（ワークショップ形式、一部講義）
	講師：医療総研株式会社 代表取締役社長 日本医業経営コンサルタント協会 理事、中小企業診断士 川崎医療福祉大学客員教授、認定登録 医業経営コンサルタント 伊藤 哲雄 氏
対象者	実施日： 令和5年2月3日(金)・4日(土)・5日(日) 〔3日間連続完結スタイル〕 【1日目】 12時～18時(6時間) 【2日目】 9時～12時(3時間)、13時～18時(5時間) 【3日目】 9時～12時(3時間)、13時～16時(3時間)
会場	当協会会員(個人正会員)
定員	当協会 本部事務局内 会議室(ホスピタルプラザビル5階) https://www.jahmc.or.jp/cgi-bin/about_association/jimukyoku.html
受講料	12名以内(先着受付順)〔注〕感染予防対策として例年の半分程度の定員で実施します
履修認定	60,000円(税込)〔注〕1日単位での申込はできません。
申込締切	全日程出席で20時間(さらに修了レポート提出により10時間加算) ※令和4年度履修該当
申込方法	令和5年1月27日(金) 〔注〕定員に達した場合は申込みを締め切らせていただきます。
	会員専用ページからの Web 申込、または 別紙の「申込書」に必要事項をご記入のうえ FAX 送信のいずれかでお申込ください。 申込受領後、担当部署より、お申込確認の連絡を差し上げます。

<当研修に関するお問合せ先>

(公社)日本医業経営コンサルタント協会
事業部 事業課

直通 TEL: 03-5275-6993

Eメール: kensyu@jahmc.or.jp

実施計画

病棟再編に向けた改善策を考察 小規模病院の経営改善施策手法を学ぶ

■コースの名称

小規模病院の経営改善事例研究 (ワークショップ形式、一部講義)

メタステージにおける専修領域全体構想と当該コースの関連部分 (●印)					
①制度対応領域	●	②事業戦略領域	●	③組織経営領域	●
④人的資源管理領域	●	⑤応用情報領域	●	⑥計量分析領域	●
⑦戦略財務会計領域	●	⑧課題解決実践力領域	●	⑨思考/創造系メソッド領域	
⑩変革系オペレーションズ領域					

■コースの講師

医療総研株式会社 代表取締役社長、日本医業経営コンサルタント協会 理事、中小企業診断士
川崎医療福祉大学客員教授、認定登録 医業経営コンサルタント 伊藤 哲雄 氏

■コースの目的

少子高齢化の進展による人口減少という大きな課題に直面している医療機関に一昨年来のコロナという今までに経験のない災禍が追い打ちをかけている。

とりわけ小規模病院においては地域医療構想の影響もあり今後の方向性をしっかり見極める必要がある。今回は100床未満、200床未満の小規模病院の現状課題分析と改善施策手法を習得する

■コースの演習概要…ワークショップ形式で受講生相互の意見交換を図りながら下記技法を修得

- ・小規模急性期病院の経営改善課題を外部環境・患者分析等を通じ抽出し、病棟再編に向けた改善策を考察する
- ・実在する病院の財務諸表、医事統計データなどを分析し課題抽出する
- ・患者分析・・・診療行為別、日当円などのデータをもとに課題抽出、改善策を探る
- ・職員配置効率分析の手法を学ぶ
- ・その他コンサルティングに必要な手法を研修する
- ・抽出した課題に対する改善策を策定する

■コースの到達目標

- ・小規模病院の現状と課題を知り、今後の経営改善策を探る
- ・地域医療構想・地域包括ケアシステムの内容を理解し、地域における提供医療機能のあり方を考察する
- ・急性期病院との連携、回復期機能病床・地域包括病床への転換などを考察する
- ・2022年報酬改定の内容解説および対応、2025年、2040年に向けた医療提供体制の方向をつかむ

■コースの進め方

日程	開始・終了の時刻	時間	講義演習の内容	
1日目	12:00～13:00	1時間	オリエンテーション (参加者紹介、講義進行概要説明)	ワークショップ
2月3日 (金)	13:00～18:00	5時間	基本講義：医療制度改革を見据えた病院経営の針路病院概要・資料説明、病院データ解析・質問	
2日目	9:00～12:00	3時間	病院における課題抽出 (SWOT分析、クロス分析等)、質疑	
2月4日 (土)	13:00～18:00	5時間	診療報酬に対応した経営改善事例講義 患者分析・職員分析、課題分析・抽出	
3日目	9:00～12:00	3時間	課題分析・抽出、分析まとめ、改善策討議	
2月5日 (日)	13:00～16:00	3時間	課題分析まとめ、改善策策定・発表準備、発表	
計	3日間	20時間	※研修後、修了レポート(テーマ等は別途指定)提出により、履修時間を10時間加算	



<申込書>

FAX 03-5275-6991

申込締切

1/27(金)

※定員に達した場合は
締め切ります。

フリーコール：0088-21-6996/TEL：03-5275-6996

(公社)日本医業経営コンサルタント協会 事業部事業課 行

令和4年度(令和5年2月)「応用・実務研修」(メタステージ)
“小規模病院の経営改善事例研究コース”
テーマ「病院経営の現状把握と改善策を考える」

会員 No.		電話	
氏名			
連絡先 (住所・所属等)	※当協会の登録通信先と異なる場合のみお書きください。 〒 _____		

【個人情報の取り扱いについて】

個人情報は、当協会個人情報保護方針に基づき利用し、安全かつ厳密に管理します。詳細は当協会ホームページのプライバシーポリシー (<https://www.jahmc.or.jp/cgi-bin/privacy/>) をご確認ください。

合計受講料：60,000円(税込)

- ・ 会員専用ページにログイン後 Web 申込みするか、この用紙を FAX 送信にてお申込ください。
担当部署より、お申込確認のご連絡を差し上げます。

【受講料のお振込みについて】

- ・ 原則として、下記のいずれかの口座にお振込みのうえ、下記情報と共にお申込ください。
- ・ 振込済み受講料は、事前に受講キャンセルの連絡がある場合に限り、返金いたします。
- ・ 請求書や領収書をご希望の場合は、お手数ですが、当協会事務局担当部署までお知らせください。

振込予定のいずれかの口座を○で選んでください。【必須】

お振込みの際は、通信欄で受講者の会員番号・お名前・研修月日をお知らせください。

A 郵便振替口座	B ゆうちょ銀行	C 三菱UFJ銀行
00140-8-549669	0一九(ゼロイチキュウ)店 当座預金口座 0549669	市ヶ谷(イチガヤ)支店 普通預金口座 0524761

【口座名】公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会

振込日(予定) 【必須】	令和 年 月 日
振込人名義 【必須】	
その他ご連絡事項	

研修環境の感染防止策

研修会場における新型コロナウイルス感染予防対策について

会場参加型研修会における新型コロナウイルス感染予防対策として実施すべき基本事項（政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」新型コロナウイルス感染症対策本部決定。）を踏まえ下記の対策を講じます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況、その他諸状況等により研修を中止・変更させていただく場合があります。

※状況により、研修の中断または中止が生じますことをご了承ください。

来場時の検温



研修会場の消毒



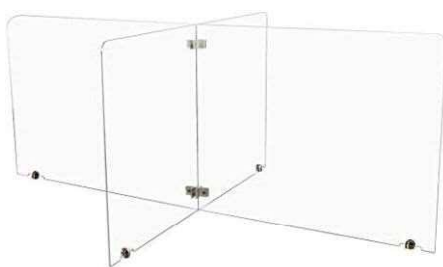
共用部分の消毒



机配置例



飛沫防止アクリルパネル



マスクの装着



【会場内での感染予防対策】

- 「3密（密閉、密集、密接）」を回避します。
- 研修会場のドアを開放し、窓を開け、または、空調の運転で適宜換気を行います。
- 研修会場の最大利用人数の約半数に制限させていただきます。
- ソーシャルディスタンスの観点から、参加者と講師や参加者間の距離を保つ配置にさせていただきます。
- 参加者の座席の正面と側面に、コミュニケーションの取りやすさを考慮した飛沫感染予防の透明アクリルパネルを設置します（写真）。
- 職員及び講師は、感染予防のためにフェイスシールドまたはマスク装着で対応させていただきます。
- 会場には手指消毒液を用意します。
- 会場の机、ドアノブ等の消毒を行います。



【受講される方へのお願い】

- 体調不良（発熱、咳等の風邪症状）の方及び、研修当日より過去 14 日以内に新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触や、身近な知人の感染が疑われる場合は受講をお控えください。
- 研修参加の 1～2 か月前に海外渡航歴のある方は、参加をご遠慮いただくことがあります。
- 来場時の検温にご協力をお願いいたします。検温の結果 37.5 度以上の場合には、セミナーへの参加をご遠慮いただくことがあります。
- 手指の消毒、手洗いの励行をお願いします。
- 研修会場内ではマスクの装着及び咳エチケットの励行をお願いします。
- 研修会場内における身体的距離の確保にご協力ください。
- 研修会場では、室温の変化に対応できるように衣類の準備をお願いします。
- 研修中に体調が悪くなった場合は、無理をせず、速やかに講師または職員にお申し出ください。
- お持ちになったペットボトル等のごみはお持ち帰りいただくようお願いします。
- 休憩中等は会話は控えめにしてください。



メタステージとは

ハード>ソフト>メタ 各ステージのちがい

- 大きく成長するために、「最も負荷の高い学び」としてメタステージを選ぶ
混迷の時代、コンサルタントは、外部環境の変化に対応するだけにとどまらず、主体的・自律的に働きかける姿勢・能力が求められるようになっていきます。
- 最大限に「学び合い」の場を活用することが、大きな成長につながる
キャリアの選択肢を広げたい、今までと違うことをやってみたい、自らの意思と力で課題を解決していくための有効な手段の一つがメタステージの学びです。
- 誰もがどこでも「使える」知識を身につけられる
好奇心があり、学んだ内容を実務に結び付けようと、学んだことを意識して「こうかな？ ああかな？」と仕事で試してみることで実践力は磨かれるのです。
- 最大の収穫は、「ポータブルスキル」が身につくこと
自分のスキルを役立つように、世の中の流れに合わせてアップデートする、つまり素早く学ぶ力や、学びを習慣化できる能力が、それを可能にしてくれます。

【語意】【カテゴライズ】(categorize) 分類すること。枠組みに入れること。

【語意】【ステージ】(stage) 物事の段階。進行分類の単位。

【語意】【実践】(じっせん) 実際の場合のもとでそれを行うこと。

【語意】【実務】(じつむ) 実際の具体的な仕事。

【語意】【ハード】(hard) 明示的なもので、論理的な伝達・表現手段によって伝達することが可能なもの。

【語意】【セオリー】(theory) 理論。個々の現象を法則的、統一的に説明できるように筋道を立てて組み立てられた知識の体系のこと。

【語意】【ナレッジ】(knowledge) 知識。経験・事例などを集めて体系化した、組織にとって有益な情報のこと。

【語意】【プロトタイプ】(prototype) 原型。後での改良を見込んで、その仕事をする大筋として作る最初の模型。

【語意】【メタ】(meta-, μετὰ)ギリシャ語における、「高次の～」「超～」「～を含む」「～の間の」「～についての」というような意味で使われる接頭辞。「メタスキル」とは、ハードスキルとソフトスキルを「繋ぎ、越える」という援用から、「スキルを使いこなすスキル」と定義されている。

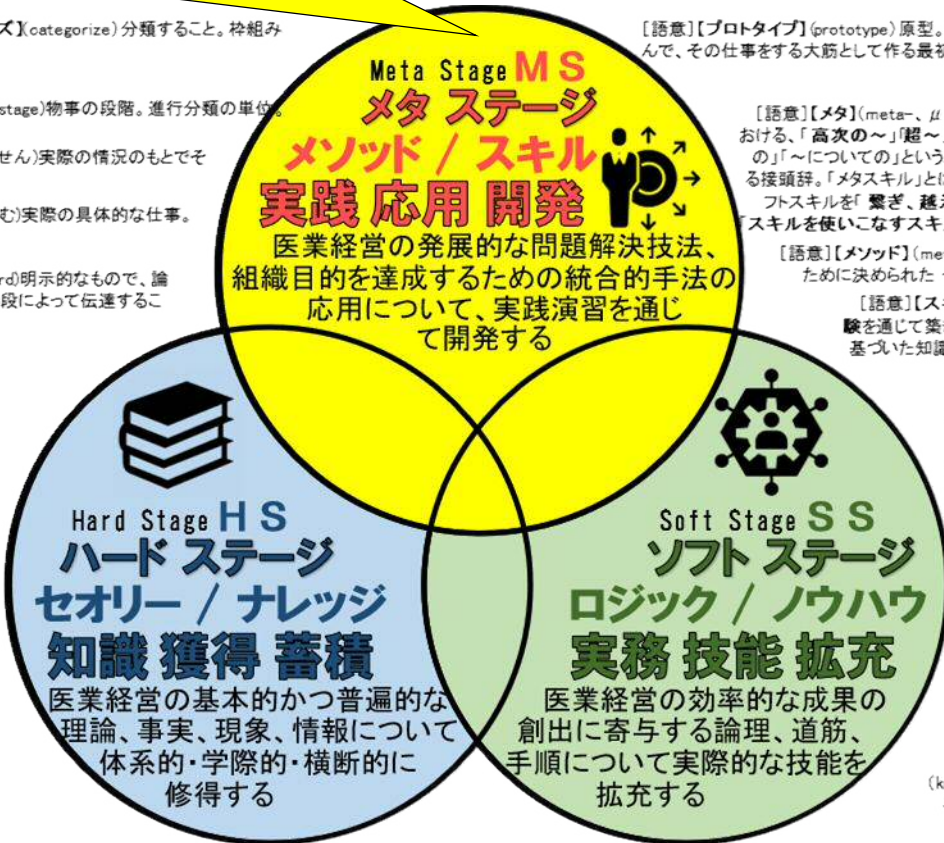
【語意】【メソッド】(method) 目的を達成するために決められた やり方。方法。方式。

【語意】【スキル】(skill) 訓練や経験を通じて築き上げる深い理解に基づいた知識・技術。技能とほぼ同義で用いられる。

【語意】【ソフト】(soft) 経験的に使っている知識だが簡単に言葉で説明できない知識のことで、経験知と身体知の中に含まれている概念。

【語意】【ロジック】(logic) 論理。自分の考えや議論などを進めていく筋道。思考や論証の組み立て。思考の妥当性が保証される法則や形式のこと。

【語意】【ノウハウ】(know-how) ものごとの手順や方法の知識



メタステージでは・・・

目標共有
参画原理
相互研鑽

- 自らが自らのために学ぶ場と位置づけるスタイルで、個別の問題意識にも対応
- スキル修得のために、互いに高めあう場を共同して作り上げる研修とする
- 参加者は、受講者でありながら運営者でもありアドバイザーでもある
- 参加者それぞれが、ある程度の役割を分かちあう姿勢で取り組む



メタステージの特徴

講師密着ゼミ形式

知的に成長する場を創り 原理原則を徹底解説

少人数で短期集中

3日間で計20時間 主体的・対話的で深い学び

全員参加/相互研鑽

誰もが主役・互いが高め合い一緒になって切磋琢磨

理論+手法=融合

新たに獲得した知識を応用する手法を身につける実践体験型

最大限に能力を発揮できる場

「直感」や「方法論」までパッケージで磨く

自ら学ぶ力+組織を変える力

どこでも活かせるスキル+変化にも恐れず立ち向かえる自信

メタステージの効用と成果

自ら能動的に深い学びを得られる

思考力や対話力が鍛えられる

知識の有意義な適用ができる

考えること、話し合うことの習慣化

たゆまぬ学習への動機付け

合意形成・問題解決力が高まる

新たな課題への気づきが生まれる

仕事のやりがいと関係性の向上



メタステージとは

ハード\ソフト\メタ 各ステージのつながり



VUCA (変動性・不確実性・複雑性・曖昧性) による環境が目まぐるしく変化し、先行きが不透明な時代に求められる組織
組織を取り巻く環境が複雑な変化をしている昨今、組織づくりの現場では対話型組織開発などの進歩的な組織論が注目され、従来型の組織の枠組みに囚われないさまざまな実践例が出てきています。これは、過去支配的であった中央によるプランニングとコントロールに基づくマネジメントの手法が機能しなくなり、現場の一線で働く者が複雑に変化する状況に対し自ら主体的に考え、行動することが必要となる事業環境が増えていることと表れとも言えます。そのような事業環境の中で、それぞれの組織や人が、その持てる力を最大限発揮するために必要なものは何でしょうか。それは、能力のさらなる向上と共に「気づき」の状態を継続的に高め伸ばし続ける力だと言われています。現場や経営者の気づきが狭いと間違った課題設定をしてしまいがちです。また、一人や一部の気づきの範囲では、複雑な変化の全体像を捉えることは自ずと限界があります。組織のメンバーが互いに関わり合い、気づきの幅を広げ、共に現実や未来の意味を語り合うことで、VUCAの衝撃に耐え、変化に適応し、自分たちの力で進化し続ける集団を築くことが求められています。

メタステージの概念と応報

